

地球市民学

『共生と平和の科学』

2) 地球市民学 後期

原 順子・三小田 博 昭
中 村 明 彦・細 谷 辰 之*

【抄録】「共生と平和の科学」は、地球市民学の2講座目である。現在起こっている諸問題を「子どもの人権」「国際協力」「ジェンダー」という具体的・多角的な視点から探究し、解決に向けて科学的に学ぶ。高校2年生を対象に、過去5年間にわたり下記のように目標を掲げて、授業実践を行っている。今年度はサイエンスリテラシー意識した2年目として、まとめのワークで生徒達がアクションプランを作ることを目指して授業実践を試みた。

【キーワード】 子どもの人権 児童労働 教育 ジェンダー メディア GEM AA 国際協力 支援 格差

1 共生と平和の科学の目標

(1)地球上の様々な集団が互いに認め合い、平和に共生共存できる可能性を探ることができる。

(認知的目標)

(2)同じ時代を生きる身近な人々や地球上の遠く離れた人々の生活に関心を持つことができる。

(情意的目標)

(3)持続可能な共生社会の実現のために自分たちに何ができるかを考えて行動することができる。

(態度的目標)

2 学習方法

共生と平和を科学していくにあたって、本年度は「子どもの人権」「ジェンダー」「国際協力」の3つをキーワードにあげた。このキーワードを軸に目標達成を目指す。目標を達成するために掲げた今年度の重点項目を、「仮説に基づく情報処理能力の育成」とした。生徒は授業の始めに説明を受けて、興味を持ったキーワードを1つ選び、3つのグループに分かれる。そこから先は主としてグループ別に分かれて、選んだキーワードの学習を深める。深めていくにあたって、まず生徒たちに仮説を立て

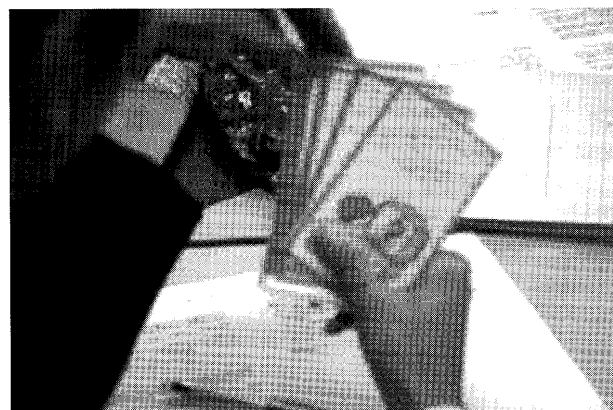
させる。仮説から出てきた言葉を順次授業で検証していく。授業形態はディスカッションやKJ法を取り入れたワークショップが中心である。人数が1グループ13~14人と小人数であるため、個人→3~4人の小グループ→大グループと意見を集約していくときも、一人ひとりに発言や活動の機会が多い。この個人から大グループへと意見を集約していく方法は、グループ共同授業・クラス一斉授業でも生かされ、互いにキーワードをリンクさせながら共通の目標に向かって検証し、学びを深めていく。



写真①



写真②



写真③

* フランス国立ポンゼシヨゼ工科大学国際経営大学院教授

3 実践内容

(1)学習内容とねらい

段階	授業内容と授業のねらい			
	回	子どもの人権グループ	ジェンダーグループ	国際協力グループ
オリエンテーション	1	<p>ガイダンス① ジェンダーと国際協力担当教員からキーワードの説明を受ける</p> <p>●ジェンダー 女と男の差異を紙に書き、黒板に貼る。差異の違い(ジェンダーかセックスか)を見つけ、書かれた差異を分類する。差異の関連を示唆し、ジェンダーという視点から、共生社会に必要なものを探ることを予告する。</p> <p>●国際協力 青年海外協力隊に参加した体験をいかして、その時に感じたことを話し、国同士の真の協力とは何かを探ることを予告する。</p>		
	2	<p>ガイダンス② 子どもの人権担当教員からキーワードの説明を受ける。総合アドバイザー細谷先生から物の見方についての助言をいただく。</p> <p>●子どもの人権 『世界がもし100人の村だったら』のワークを通して世界の現状を知らせる。バングラデッシュ訪問の体験談から子どもの人権に触れ、子どもの権利条約から共生と平和を探ることを予告する。</p> <p>3つのガイダンスから自分がより学びたいグループを選ぶ希望調査をする。</p>		
仮説を立てる	3	<p>権利とは人権とは</p> <p>細谷先生から権利・人権についての基本的概念を学ぶ。また子どもの権利に関する上位法を調べる。</p>	<p>ジェンダーを見つけよう</p> <p>男らしさ女らしさは何に由来するのか。らしさを書き出し、根拠となるものを考え、発表しあい各自で仮説を立てる。</p>	<p>国際協力の現状を知る</p> <p>国際協力にはどんなものがあるか？生徒が考えつくものを発表させ、青年海外協力隊の概要にふれる。</p>
	4	<p>子どもの権利条約</p> <p>ユニセフの資料を活用し、子どもにはどのような権利が保障されているのか、またどのようなことを目的として条約が多く国や地域によって批准されているのかを学習し、グループ仮説を立てる。</p>	<p>伝統とジェンダー／相撲体験</p> <p>女性が土俵に上がれないことは女性の人権を侵害しているか、を考えながら名大相撲部を訪ねて、男子は稽古をつけてもらう。女子は見学。各自の仮説を1つのグループ仮説にまとめる。</p>	<p>国際協力の現状その2</p> <p>前回のまとめを「活動の種類」「活動の分野」として、どこかに所属し全体として関係していくことや、多方面からアプローチしていく現状を確認し、各自の仮説をグループの仮説に集約する。</p>
	5	<p>3 グループ合同～仮説発表会～</p> <p>各グループでまとめた仮説を他のグループに発表し、これから検証していく課題を明確にする</p>		
検証する	6	<p>貧しさと豊かさ</p> <p>worldmetersから世界の現状を実感し、3枚の異なった国の写真から見える「貧しさと豊かさ」をフォトランゲージによって考察する。</p>	<p>言葉や教育がジェンダー形成に与える影響を考え検証する</p> <p>辞書から「男女」に関する言葉を探る。現代文や日本史の教科書から登場人物の性差を探る。</p>	<p>国際協力／相撲体験</p> <p>「共生と平和」の大テーマに振り返り、日本の文化と伝統を相撲という格技を題材に提示。男子は直接体験、女子は見学。</p>
	7	<p>2 グループ合同～リプロダクティブヘルス・ライツ～</p> <p>TV「世界がもし100人の村だったら／13歳の母」を視聴して、子どもの権利条約や世界人口基金が訴えるリプロ。の実現を阻むものを探る。人権と貧困と家庭・社会環境を検証する。</p>		<p>国際協力の必要性について</p> <p>細谷先生から、国際間協力について、なぜ必要とするのかを、世界の情勢を例に基本概念を学ぶ。</p>

段階	授業内容と授業のねらい			
	回	子どもの人権グループ	ジェンダーグループ	国際協力グループ
検証する	7	<p>冬休みの課題～メディアリテラシー～を全グループに課す メディアが発信するもののなかに潜む意図をそれぞれのグループで、TV、映画、雑誌、新聞、本などの中から、偏った表現、ステレオタイプを強調する表現など探す。ヒント 子どもの人権：子どもの人権を軽視する表現 子ども番組に不必要な暴力などの表現 国際協力：人種や民族に対する憎悪・偏見を扇動する表現 ジェンダー：性別役割を固定する表現 性を商品化する表現</p>		
	8	<p>人権／相撲体験 名大相撲部を訪ねて、男子は稽古をつけてもらう。女子は見学。「稽古としごき」をテーマに人権を考える。</p>	<p>メディアの影響を検証する 課題レポートを題材にして討論をする。メディアがジェンダー形成に与える影響を検証する。</p>	<p>メディアの影響を検証する 課題レポートを題材にして討論をする。提起された題材をもとに、どのような権利が侵害されているのかを議論する。</p>
	9	<p>メディアの影響を検証する 課題レポートを題材にして討論をする。提起された題材をもとに、どのような権利が侵害されているのかを議論する。</p>	<p>2グループ合同～エコグラム～ 自我状態（思考・感情・行動パターン）をエコグラム質問紙を使い表す。その結果を基に自分の行動について振り返り、自我状態がどのように機能しているかを自己分析していく。改めて自分の交流パターン再確認の場とする。</p>	
	10	<p>2グループ合同～協力隊OB 青年海外協力隊OBを招き、発展途上国の生の状況を伝えてもらい、「貧困」「国際協力」をどのように捉えているのか、体験者の考えに触れて知識や考えを深める。</p>	<p>世界の中のジェンダー リンク 国連人間開発の指数やGDPをもとに、共生と平和を測るものさしを検証する。中でもGEMに注目し日本の現状とこれまで検証してきたものとの関連を考察する。</p>	
まとめ	11	<p>就学率と識字率 非識字体験ワークを通じて文字の読み書きができないとはどのようなことなのかを議論する。</p>	<p>ノルウェーの教科書から学ぶ GEM上位国のノルウェーでかつて小中学校で使っていた男女平等の教科書（日本語訳）6巻を読む。</p>	<p>協力援助の気をつけること 国際協力活動が様々な問題を生み出す可能性のあることを知る。良いものにするための留意点を考える。</p>
	12	<p>児童労働 児童労働に関するウエビングを行い、児童労働ビデオからその原因を考える。また、児童労働にいたるまでの背景や児童労働に起因すると考えられる様々な影響や働らかざるおえない状況の子どもを取り巻く大人の姿にも触れる。</p>	<p>「PA」「AA」は共生と平和をもたらす解決策になるか 欧米で広がるPA（ポジティブ・アクション）やAA（アフターマティブ・アクション）。日本でも男女共同参画の施策として取り上げられている。いろんな場面でのPA・AAを想定して功罪を考える。</p>	<p>国際協力プロジェクトを作る 自分にできる・やってみたい国際協力活動を考える。また、具体的なプロジェクトにすることにより、実際に行動してみようという気持ちを育てる。</p>
	13	<p>まとめのワーク（研究協議会） ワーク「教室の4隅」でグループごとに仮説を立てて検証してきたことを全員で振り返る。ワーク「蜘蛛の巣」で3グループの関連を探りながら共通項を見出す。そして自分たちの今後の「生き方」に向けてアクションプランを創る。</p>		
	14	<p>集録作成</p>		
	15	<p>集録作成綴じ・アンケート</p>		
16	<p>細谷先生まとめの講義</p>			

(2)生徒の立てた仮説

～5回目授業「仮説発表会」の発表原稿～

●子どもの人権

先進国側の人間は恵まれていない子どもたちに何ができるかを考えた上で、財政的・人道的支援を行う。また、途上国側の人間は先進国の援助を受身に考えるのではなく、進んでどうすれば、子どもの権利が確立できるかを考え、国をよくするための政治を行う。

先進国側も途上国側も子どもを中心に何ができるかを考える。大人も子どもも権利を守り、それを行使できる社会にする。またこれらのことを含め、専門等を教える学校を世界各地に設け、義務教育を世界一様の教育方針にする。そのための費用は先にも触れたが、世界の富豪に援助してもらい、人類皆が認め合い仲間意識をもつ。また、これらの組織の取り決めを行う最高権力をもつ機関をつくる。

●ジェンダー

「女らしさ」「男らしさ」は昔からの風習。例えば女は家、男は外、といったようなものから成り立っていると思う。そしてそれは、男と女の体の違い（性差＝セックス）からきているものだと考える。それが今もなお男、女それぞれに支障をきたしていることも少なくない。男女の共生を実現するには、まずは男女同一賃金、雇用機会の均等などの法的・社会的待遇が必要。また、メディアの影響は大きいため、例えば男性の看護師、女性の競艇選手などを多く取り上げたりすると、今まで男がすること、女がすること、という概念を薄め、自分の意志で参加しやすいようにすることによって、社会全体の固定概念も徐々になくなっていくと思う。

しかし、女性・男性は肉体的な違いはどうしてもあるものなので、それを踏まえた上でお互いを理解し、受け入れる必要があると思う。トイレのマークの色など、今さら変えても混乱を招くものもあるので、むりやり差異をなくすことを進めることはせず、「差別」「区別」「分担」を明確にした共生が必要。その上で社会全体が「女」「男」と分けずに「ヒト」として1つに考えるということが重要なのだと思う。

●国際協力

- ・開発途上国の現状を理解し、援助だけでなく多面での人と人との交流が共生と平和を考えるには必要である。
- ・多方面からの支援は、途上国の人々の現状を理解しないかぎりは一方的であり、開発途上国の文化的で健康な生活を営めるように協力活動することが共生と平和には必要である。
- ・共生と平和を勧めるためには、自己利欲が主にならないようにバランス良く援助が行われることで、特に人材の交流は重要な点である。

(2)検証例

●子どもの人権

世界の現状を疑似体験する。また3枚の写真から「貧しさ」と「豊かさ」を検証する。(第6回授業)

- ・世界人口が秒以上の早さで増え続ける。日本でない日常を送っている間にも5歳未満の子どもが秒単位で死んでいく。
- ・餓死していき人びとの数字が激増する一方で、ダイエットに使われているお金が目にも止まらないスピードで変動する。
- ・ティーンエイジの女の子が子どもを産み続ける。そして母体保護のために中絶する。出産の際に母親が死亡する。(以上Web上のworldmetersより見えるも)
- ・ブータン、タンザニア、日本に住む家族の写真から日本の子どもは物質的には「豊かである」が精神的には「豊かではない」
- ・写真からみえる日本の子どもの方が、学校にも行っているし、物の豊かだからブータン、タンザニアの子どもより「幸せである」。でも日本の子どもには笑顔がないから日本の子どもは「幸せでない」。
- ・「子どもの人権」に関して言えば、どっちもどっちである。(以上フォトランゲージより)

●ジェンダー

固定概念を伝える装置として「言葉」「教科書」をリテラシーする。(第6回授業)

- ・「男女」などの言葉には、すでにそこに「男らしい」とか「女らしい」という概念があることを示しているから、それはおかしいと思う。女はこうだ、男はこうだ、と辞書が定義しているから社会全体の通説になっていく。(例:「女賢しゅうて牛売り損なう」「男泣き」)
- ・女性は弱々しく、男性はたくましい。もともと男はこうあるべき、女はこうあるべきという考えがある中で、言葉の意味が成り立っている。(例:「男坂」「女坂」)
- ・男女は全部対比されている。共通な像はあまりない。(例:「男は度胸 女は愛嬌」)
- ・現代文の教科書には作編者・登場人物ともに男性が多い。
- ・日本史に残るのはたいてい男性。近年になってようやく女性も出てきた。女性は利用されたりして描かれている姿が多い。北条政子すらも時政の政権GETTの手段に過ぎない。

●国際協力

- ・国際協力の分野では、開発途上国の共通する問題として『貧困』を掲げている。
- ・政府間の資金援助での国際協力活動には金の流れ、物の流れが1部の限られた人や場所にとどまっし

まう傾向を感じる。最新の施設を援助しても、それを使うことのできる人材が育っていないと、立派な施設もゴミとなってしまっている。その国の文化を尊重し、その国の状況にあった協力活動は多種多様であり、限定できるものでない事を感じる。

- ・豊かな暮らしをしているにも関わらず、開発途上国等の現状に目を向けていない人が、その機会に出会った時には、途上国にしっかり目を向け、ただ何となく物資援助をするだけでなく現状を理解し、自分たちの生活そのまを相手に押しつけないことが大切な気がする。

(3) 「まとめ」段階のワーク

【研究協議会 地球市民学授業案】

1. 日時・場所 2008年2月19日 (火)
第1限～第2限 (9:40～11:30)
図書室 (中央棟1階)
2. 対象生徒 高校2年A組 (40名)
3. 授業者 細谷 辰之
(フランス国立ボンゼンジョゼ工科大学)
中村 明彦 (体育科)
三小田博昭 (英語科)
原 順子 (家庭科)

4. 講座 「共生と平和の科学」 — 『国際協力』『子どもの人権』『ジェンダー』を軸に共生と平和を考える—



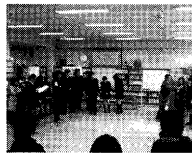
5. 目標 グループごとに仮説をたてて検証してきた「共生と平和」を、ワークを通して3グループの関連を探りながら共通項を見出す。そして自分たちの今後の「生き方」に向けてアクションプランをつくる。評価は目標が達成されたかどうかによる。

6. 学習形態 ワークショップ

7. 準備するもの

- ・色紙3色
(国際協力：ピンク 子どもの人権：黄色 ジェンダー：水色)
- ・安全ピン
- ・名札
- ・黒色マーカー
- ・模造紙 3グループ×4枚=12枚
- ・画鋏12×4個=48個
- ・毛糸3色
(色は色紙の色に合わせる)それぞれ4玉ずつ
- ・筆記用具

8. 学習計画

時間	学習内容	学習活動	留意点(○)評価の観点と方法(◎)				
9:40 (10分)	振り返りと本時の学習計画を知る 	・自分のグループの色紙を上腕につける。 ・グループ毎に学習してきたことを報告する。 	○他のグループに向かって報告させる。報告者は予め決めておく。 ◎本時の活動がわかったか観察する。				
9:50 (20分)	ワークショップ 「教室の四隅」 	<table border="1"> <tr> <td>強く そう思う</td> <td>どちらかと言え ば思う</td> </tr> <tr> <td>どちらかと言え ば思わない</td> <td>全く そう思う</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・椅子を片付けて中央に広い空間をつくる。 ・仮説に関連した問いかけに対して、全員が自分の思う教室の四隅に移動する。 	強く そう思う	どちらかと言え ば思う	どちらかと言え ば思わない	全く そう思う	○教室の四隅に、選択肢を書いたついたてを置き、移動しやすくする。 ◎上腕の色紙で学習グループがわかるのでグループ別に質問して意見を聞く。 子どもの人権例： <u>親が子どもの手紙を無断で読むのは子どもの権利条約に違反している。</u> ジェンダー例： <u>地下鉄に女性専用車両があるなら、同じように男性専用車両が欲しい。</u> 国際協力例： <u>途上国へ先進国から資金援助をすることが国と国との共生には必要である。</u>
強く そう思う	どちらかと言え ば思う						
どちらかと言え ば思わない	全く そう思う						

10:10 (10分)	ワークショップ 「蜘蛛の巣」 ①キーワードを決める 	<ul style="list-style-type: none"> 3つのグループ（国際協力・子どもの人権・ジェンダー：以下G1と記す）で仮説をもとに「共生と平和」に関するキーワードを4つずつ考え、模造紙に書く。話し合った内容はメモをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちのグループで学習してきたことをベースとして考えさせる。 12枚の模造紙に一語ずつキーワードが書いてあるか見て確認をする。
(5分)	②G2をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> G1内で話し合いをして、キーワード毎に4つに分かれる（この新たな小グループを以下G2と記す）。 G2ごとに選択したキーワードをラベルに書き、首から下げる。 模造紙をついたてに貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> G1からG2へは生徒の希望を重視しつつ、人数が均等になるように心がける。G2は3~4名になる。 G2で協力して作業を進めているか観察する。
(5分)	③役割分担をする 	<ul style="list-style-type: none"> G2で「動く交渉人」（1人）「受ける交渉人」（1人）「書記」（1 or 2人）の役割を決める。 「受ける交渉人」は模造紙の前の椅子にすわる。ウエストにG1の色紙と同じ色の毛糸玉の一端を結びつけておく。動く交渉人が来るのを待つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 人数調整は書記で行う。 キーワードを決めたときのメモを用意して交渉の内容を確認させる。 G1が同じ4つのG2は並んで座り、同色の毛糸玉を持つ。
(20分)	④「蜘蛛の巣」をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> 「動く交渉人」は他のG1の受ける交渉人のところへ行行って、互いのキーワードの関連やつながりについて話し合う。 交渉人同士が合意したら、「動く交渉人」は自分のG2の「受ける交渉人」から毛糸玉をのばして、相手の「受ける交渉人」のウエストに巻き付ける。 「書記」は合意したキーワードとその理由を模造紙に書く。（くり返す） 	<ul style="list-style-type: none"> 「動く交渉人」は必ず「受ける交渉人」まで行って話し合わせる。「動く交渉人」同士が話し合うのではない。 毛糸は相手のウエストに毛糸を巻き付けたら常に元の「受ける交渉人」の手元にあるようにさせる。 毛糸はびんと張った状態にしておくように気をつけさせる。 交渉人同士の話し合いを観察する。
(20分)	⑤できあがった「蜘蛛の巣」とは何か 	<ul style="list-style-type: none"> 「書記」が模造紙を「蜘蛛の巣」の上に置き、全員で見つめる。 できあがった「蜘蛛の巣」状の毛糸は何を意味しているのか考える。 書記を中心に模造紙の内容を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 3色の毛糸でできあがった「蜘蛛の巣」は別々に立てた仮説が、共生と平和の実現には相互にかつ全体的に関連していることを気づかせる。 発言から関連に気づいたか確認する。
11:10 (20分)	アクションプランをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> 見出したいいくつかの共通項から、自分たちの今後の「生き方」に向けて1つのアクションプランにまとめる。 代表者1人が発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団が互いに共生共存できる地球市民としてのアクションプランを言葉で表現させ、発表させる。

1) ワークの中でグループ(G1)から出たキーワード

- 子どもの人権：子どもと家族・生活環境の格差・児童労働・子どもの教育
- ジェンダー：メディア・GEM・教育の中のジェンダー・AA/PA
- 国際協力：支援・法律・格差・地球

2) 生徒が作ったアクションプラン

『インターネットの記事や、新聞を読むことにより、今世界で何が起きているのかを知る。そして知ったことを、ただフェアトレードや募金などの手段によってのみではなく、食べ物を残さないということや、法律を守るという行動により、世界中で起きていることは自分と関係のないことではないということ、改めて考え直すことが重要である。』

4 成果と課題

(1)目標に対する実践の成果と課題

- ①認知的目標に対しては、現状を知るところから入った。仮説を立てるに当たってどのグループも、認め合うことは違いも認めていくことだ、と気づいていった。さらにまとめのワークで3つのグループが4つずつ掲げたキーワードが別個のようで近いものであること(例：教育・格差)に気付いたことも認知的目標に近づき、違いを認める『違い』には異なるテーマでも『同じ違い』が存在することに気づいた。
- ②情意的目標に対しては、ガイダンスの中で教師の体験談を聞いたり、撮影してきたビデオや写真を見ることで、問いかけが自分のこととして考えやすく、関心を持つことができた。クモの巣のワークの交渉人たちは、お互いのキーワードの背景に関心を持ち、聞き合っていた。しかし、AA/PA(アファーマティブ・アクション・ポジティブ・アクション)のようにまだ広く知られていない用語は背景より以前に言葉の説明が必要だった。生徒達は検証の段階で各グループで使われている用語を理解できるように、全員で事前に共有できると良かったと感想を述べた。
- ③態度的目標に対しては、まとめのワークでアクションプランを作ることができたことが大きな成果である。日常生活で行動できるかどうかはこれから先の生徒の日々の生き方に関わることなので、達成度はわかりにくい。しかし、生徒達はまとめのワークで話し合いをしながらクモの巣ができていく課程を目の当たりにした。さらにアクションプランを作っていく課程で世界の諸問題の関連性を見出していった。このような個々の問題を深めながら、なおかつ別の問題を繋げていくという作業は繰り返し行ううちに行動が変わるものと期待する。

(2)生徒が感じた成果と課題(生徒集録より抜粋)

●子どもの人権

・人間一人では絶対に生きていけない。たくさんの人に支えられ、そして支え、give and takeの上で生きている。金持ちであろうが貧乏であろうが、楽しい人生を歩むことはすべての人が望んでいるはずだ。だから、共生と平和は不可欠であり、考える必要がある。

何事も行動しなくては始まらない。私が今行動すれば何かが変わるかもしれない。子どもの人権について多くのことを学んだ。それをもとに行動しようと思う。フェアトレードショップへ行こうと思う。ユニセフの募金にも参加しようと思う。身近なところから、私に出来ることはたくさんある。私が世界を良い方向へ変えてやる、と心に誓った。(K・A)

・学んだことを通して考えたのは、世界における子どもの人権のなさ。子どもの人権がもっと尊重されなければ、食べ物にも困らない、働かなくてもいい、学校にも行ける。子どもの権利条約なんて守られていないところがほとんどであった。いや、守ることができないのかもしれない。そんな子どもたちの生活を変えるには、国から、世界から変えなければならぬ。そのために私は、今の恵まれた生活をもう一度見直したい。そして、将来海外に行って世界中の人とふれ合って、誰かのためにできることをしたいという思いが一層強まった。(U・S)

●ジェンダー

・日本は世界2位の経済大国で先進国とカテゴライズされている。しかし、GEMは著しく低く、ジェンダーステレオタイプも根強く残る。ジェンダーは男女間に限らず、究極的には人間関係の問題。つまり、人間社会の不健康ゆえの問題だ。日本が根ざすべくものは愛国心などといった教育ではなく、人間関係の構築を子どもたちに考えさせる教育だと思う。

平和と共生のために。まずは隣にいる友人との人間関係を改めて考え、本当に良い関係とは何か、どのような人間関係が理想か考えたい。そうすれば、必然的にジェンダーの問題も解決し、その輪が広がれば、地球市民との共生も可能になるだろう。難しいことは僕にはできない。けど、小さいことから土を耕し、美しい花々を咲かせたい。(S・K)

・私たちにジェンダー平等を実現するために、なにができるだろうか。私はまず男女の差を理解し、その上で男女が対立せず、互いを個人として尊重し合い、愛を持って接し合っていれば、「男だから」「女だから」ではなく「あなたで良かった」と言えるような社会ができると思う。そして、互いを尊重し合える環境をつくり上げることができれば、次の世代

にもその思いは受け継がれていき、本当の意味でのジェンダー平等が実現できると思う。

私もまだ、分からないことばかりで、答えのない課題だとは思いますが、それでも今後もこのような授業が続き、少しでも意識を持った人たちが社会に増えると思うと、未来も明るいと思う。そして、人と人が互いに慈しみ、尊重し合い、愛し合う社会になって欲しいと心から思う。(K・Y)

●国際協力

- ・私がこの授業を通して考えた国際協力プロジェクトとは、まず健康面・衛生面の設備を行うことです。何事も体が資本であり、もし飢餓や病気の状態であれば、そこに教育やコンピュータなどの設備の提供をしても意味がありません。まずはすべての人が健康を取り戻すこと、それが今最優先だと思います。本当にその支援が必要か、押しつけになっていないか、その支援を通して相手国へ自立を促すことができるのか。そういったさまざまなことを考慮してこそ、私たちは「ホンモノの支援活動」ができることをこれからも考えていきたいです。(S・I)
- ・最初に仮説を立てました。「互いの国の文化を理解し合った上で、人とモノの国際協力活動をし、発展途上国の貧困をなくすことが共生と平和には必要である。」

始めは分かりきったことだと思っていましたが、何も分かっていませんでした。今、私に何ができるか、と言われると、本当に小さなことしか思い浮かびません。でも、中学生の時に送った鉛筆を嬉しそうに持っているアフリカの子どもの笑顔は忘れません。そういうことで、少しは役に立っているのかな？と感じることができました。

授業で学んだ国際協力についてはもっと知りたいな、と思います。そしてちゃんと考えを発信できるようにになりたいです。(M・Y)

(文責 三小田博昭 中村 明彦 原 順子)



1 交渉人がキーワードを話し合う



2 関連を見出して蜘蛛の糸をはる



3 出来上がったクモの巣



4 ここからアクションプランをつくる